

第 71 回例会

福井いきいき会芸能倶楽部公演

実施期日：平成 30 年 11 月 29 日（木）

会場：アオッサ 706, 707 号室：

公演： 当会芸能倶楽部劇団幸齢者 出し物：絵姿婆女房

参加者：86 名（内新会員 6 名）

公演の前に、当会芸能倶楽部・高齢者が 11 月 24 日に一般社団法人・あすの福井県を作る協会から、平成 30 年度福井県元気なふるさと作り活動賞の中の奨励賞を受賞したので、表彰状を濱田相談役が読み上げ、林幸雄座長が受領して伝達表彰を行った。

絵姿婆女房のあらすじ：江戸・徳川時代、越前の国美山にも少子高齢化時代があった。

その村に、女房と 40 年前に死別した 80 過ぎの貧乏ながらも心優しい善兵衛という爺さんが、田畑を耕しながら一人暮らしをしていた。ある日のこと、善兵衛が口ずさむ♪一鍬打ちこみや千粒じゃ、二鍬打ちこみや万粒じゃ♪という歌を真似ながら、一人の老婆が近づいてきて、一晩で良いから泊めてほしいと懇願する。彼女の名は「うめ」、と自分を紹介する。一見した時から好感をいただいた善兵衛は、照れ隠しの表情で一夜の宿を了承する。

翌朝老婆が起きてきて挨拶するなり、お互いに一人者同士、自分をお嫁にしてもらえないかと切り出す。彼女もまた 30 年前に夫と離婚して今は一人者という。双方が「バツイチ、バツイチ」と意気投合して、老婆の嫁入りを了承する。善兵衛は百姓仕事に打ち込み、うめは繕い物等家事に精を出すとい



う約束にもなってしまう。う。うめは

関わらず、身も心もうめのとりこになった善兵衛は、一旦は仕事に行って出かけるのだが、すぐに戻ってき仕事よりうめの顔を見ていたいとい思案の末うめの似顔絵を描き、それ仕事に出す。善兵衛もそばにうめがいることに安堵して仕事に精を出すのだが…。ところがある日、善兵衛が鍬打ちをしていると一陣の風がうめの似顔絵を空高く巻き上げ、それが江戸城の將軍家の目に留まること將軍は家来にあら女性を探し出せと。將軍は日本中機がないため日本



の松の木に引っかかり、將軍となる。その美貌に魅せられ、ゆる手を尽くして似顔絵の命ずるが、近郷には見つからをくまなく探せと命じ、印刷中の絵師を集めて似顔絵を

描かせ、家来を総動員して探した結果、越前の美山村に善兵衛と暮らしていることを突き止め、家来たちは強引にうめだけを江戸城へ連れ帰る。途方に暮れた善兵衛は地場の特産・長芋売りに身を代えて江戸城の周りを長芋を売って回る。

家来に拉致されて以来、うめは笑わない女になっていたが、長芋売りの「長芋は要らんかねー」の声を聞くと、老婆はその声が善兵衛だと知ってわざと大笑いし始めた。自分が見初めたうめが大笑いをするのを見て、将軍は直ちに長芋売りを城に招き寄せ、衣服を交換させ、自ら「長芋は要らんかねー」と長芋売りに身を代えた。うめはますます笑い声を大きくし、ついに将軍を城外へ追い出してしまった。将軍も調子に乗ってしばらく長芋売りになり切っていたが、いざ城へ戻ろうとすると、今度は家来たちがそれを許さず、結局善兵衛夫婦は江戸城にあった千両箱を土産に美山へ帰る。村人もそれを歓迎し、祝福し、ひいては少子化の美山が子だくさんの村になって目出度し目出度しで幕を閉じる民話劇である。



40分程度の上演中、会員は出演者の演技に見とれ、一セリフごとに笑い拍手で名演技に答えていた。

以上 大野 記

